

## 平成29年度英語科海外ホームステイ研修報告 7月26日（水）

いよいよ今日から研修も後半戦に突入しました。今朝は一昨日の寒波が逆戻りし、凍える寒さとなりましたが、生徒たちの日記の多くに「オーストラリアに来てから雲を見ていない。」と記されているように、日中はどこまでも青空が広がり強い日差しが降り注ぎます。疲労や空気の乾燥から、風邪気味など体調が優れない生徒が若干名でてきましたが、ほとんどが元気な姿で登校してきました。しかし、残念ながら今日も忘れ物があり、全員提出には至りませんでした。同じ失敗を繰り返すことで著しく信頼を失うこと、明日繰り返さない為にはどうすればいいのか考え、必ず実行することを約束しました。

英語レッスン2日目、今日も Joshua 先生と Peta 先生によるアクティブなレッスンが始まりました。「英語の耳」になってきたのか、「少しずつ相手の言っていることが分かるようになってきた。」「日本の昔話の内容が出てきて楽しかった。」など、自分自身の成長を肌で感じ、多くの生徒が満面の笑顔を見せてくれました。

ここで、Peta 先生のクラスでの一コマを紹介します。Peta 先生の英語が速く、聞き取れずに頭にクエスチョンマークが浮かぶ生徒たち。このまま理解しないまま授業が進行していくのかと思った矢先、後ろの席に座っていた生徒が突然前の席に移動してきました。レッスン後、彼に訳を聞くと「わからなくて、このまま後ろにいたら寝てしまうと思ったから移動しました。」と一言。たった一言、たった一つの行動。しかし、彼のこのシンプルな行動には何倍もの価値と意味があります。手を挙げて発言することへのためらい、他と違った行動を取る事に対する恐れ、自分でない誰かが質問するだろうという他人事感 — 生徒たちの中にはまだまだこのような雰囲気があります。それら全てから脱却する為には、誰の力でもなく、生徒一人一人の行動が必要にまることは言うまでもありません。これからは、どんな場面でも意志表示をすることが求められます。ためらわず一歩踏み出す勇気を、残りの研修を通して身につけて欲しいと思います。





午後からはバディの授業と一緒に参加しました。英語、宗教、ダンス、メディアなど、ここでしかできない授業を体験することができました。ダンスの授業では、バディに一人一人振付を教えてもらい、最後に全員で発表する機会がありました。授業の最中、バディに話しかけ、笑いが起こりお互いに笑顔になる一幕がありました。友好を深める際に「ユーモア」は大切です。一つの笑いで心の距離はぐんと縮まります。一人一人素敵な「個性」があります。残りの研修期間でその個性を存分にアピールし友好を深めていって欲しいと思います。

通常授業後、15分間 Joshua 先生による一日の振り返りを行います。研修も半ばを迎えたので、これまでの振り返りと残された時間をどのように過ごすかという問いを投げかけました。「ここでの生活が充実していて、日本に帰りたくない。」という意見もあれば、「家族、日本が恋しい。」と外に出て改めて家族の大切さや日本の素晴らしさに気づいたという素直な言葉もありました。どの感想も実際に経験しなければ味わえなかった気持ちだと思います。しかし、郡高生ならまだまだきるはず。研修前から何度も言っていますが、遠慮をしないで自分の気持ちを伝えること、ここでしかできないこと、人との交流を大切にすることを再度伝えました。残された時間をどう過ごすかで研修の充実度は違ってきます。そして、それを作り上げるのは、先生でも添乗員さんでもなく、生徒たち自身だということを忘れずに、オーストラリアでの残された時間を過ごしてほしいと思います。